

信州大学医学部附属病院 呼吸器外科に
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ
当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

2021年4月10日

「当科における周術期 DVT/PTE プロトコールの有用性の検討」に関する臨床研究を実施しています。

信州大学医学部医倫理委員会の審査による医学部長の承認を得て実施しています。この研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	5111
研究課題名	当科における周術期 DVT/PTE プロトコールの有用性の検討
所属(診療科等)	呼吸器外科
研究責任者(職名)	小池 幸恵(医員)
研究実施期間	倫理委員会承認日～2025年3月31日
研究の意義、目的	日本における一般外科手術後の肺塞栓では胸痛や呼吸困難などを認める、症状のある肺塞栓の頻度が腹部手術より胸部外科手術で1.2%と高いとされています。肺塞栓は一度発症すると死亡率が高く、特に特に手術で肺を切除した場合、重症化しやすいとされており、主な原因となる下肢静脈血栓を含め早期診断および急速な対応が重要となります。術後の肺塞栓や下肢静脈血栓の早期診断に D-dimer および可溶性フィブリン(soluble fibrin:SF)が有用とされており、当科では D-dimer と SF を用いた周術期 DVT/PTE 検査プロトコールを作成し、肺塞栓および下肢静脈血栓の早期診断、早期治療を目的とし運用しております。研究では当科における周術期 DVT/PTE 検査プロトコールの有用性につき検討しております。
対象となる患者さん	2020年3月11日から2021年3月8日の期間に当院で手術を受けられた方で周術期 DVT/PTE 検査プロトコールが適応となった方。
利用する診療記録／検体	被験者背景、性別、年齢、BMI、喫煙歴、原疾患、術式、手術時間、出血量、術後1日目および4日目の D-dimer および SF 値、術後1日目の DVT/PTE の有無／なし
研究方法	上記期間中に、信州大学医学部附属病院呼吸器外科で手術を受けられた方の術後採血結果を使用します。採血結果を確認し、上記プロトコールに基づき血栓検索の対象となった方に肺塞栓および下肢静脈血栓の検索を行い、血栓検出率を調査し、プロトコールの有用性について検証します。

共同研究機関名	本研究は、信州大学のみで実施されます。
問い合わせ先	氏名(所属・職名): 小池 幸恵(信州大学呼吸器外科 医員) 電話:0263-37-2657

既存の診療記録、検査結果を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査の必要はありません。

当院外へ患者様を直接特定できる個人情報ができることはありません。

必要な情報のみを集計します。研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌などで発表しますが、患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、同意取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、試料や情報が匿名化されて個人が全く特定できない場合などには、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。